

令和2年5月7日

各位

日本川崎病学会

会長 高橋 啓

副会長 鈴木啓之

鮎沢 衛

NPO 法人日本川崎病研究センター

理事長 今田義夫

川崎病と COVID-19 に関する報道について

欧米各国から、川崎病に類似した症状を示す小児患者が増加しており不全型川崎病と診断され集中治療室で管理された重症患者の一部に COVID-19 患者が含まれているとの報道がなされています。これを受けて日本川崎病学会では運営委員に対し、令和2年2月～4月の川崎病の発生状況、重症度についてヒアリングをしました。その結果、川崎病患者数、重症患者数共に平年並みか減少したと回答する委員が多く、増加しているとの回答はありませんでした。一方、報告された小児の COVID-19 患者はいずれも軽症で、欧米で報告されているような川崎病類似の重症例、川崎病と COVID-19 との合併例共に確認されませんでした。

さらに、本学会小委員会であるアジア川崎病研究グループではアジア各国における状況についても現在調査を進めています。これまでのところ欧米の様な症例の発生は把握されておらず、特に韓国では発熱患者の全例で SARS-CoV-2 PCR が実施され、川崎病患者も例外なく検査されていますが陽性例は一例も認めていないとの報告がありました。

このように本邦および近隣諸国では現時点で川崎病と COVID-19 との関係を積極的に示唆できるような情報は得られていません。日本川崎病学会は今後も両疾患の動向について注視して参りますが、現段階では一般の方に過度の不安を与えることのないよう、そして、川崎病の診断基準を満たした場合には適切な治療を遅滞なく開始下さいますようお願い致します。